

# C-17 衣服設計のための体形分類の研究 - 体形の類型化について -

京都女子大家政 ○土井サチヨ 福井弥生 斎田つゆ子 中野慎子

目的 衣服設計をするに当っては、主要部位の計測値が基礎となると思うが、形態的要素を加味した考察が必要と考える。したがって、体形類型化の基準を見出すことを目的として、主要部位の周径および形態を推測するための横矢示数を用いて、複合状態とその出現率を求めたが、バラツキが大きく、集約する必要があると考えた。そこで今回は、これを集約して、基準を検討することを目的としたものである。

方法 資料は、1972年7・8月に京都地区で測定した25才～65才・女子（ミセス）532名の計測値である。

考察項目は、衣服設計に主要と考える長径3項目、周径7項目、幅径3項目、示数値4項目および体重である。これらの項目の計測値と標準偏差を用いて、環状グラフを作成し、各個人のスコアによって座標をとり、一つのパターンとして認識する方法をとった。

結果 環状グラフに現れたパターンによって推測した体形と、シルエットによって撮影した体形との一致点を見出すことができた。これによって、類型化の主要因を、周径と横矢示数におくことが妥当であると考えた。